

関東東山病虫害研究会報投稿規程

1. 本誌への投稿は、本会正会員および特別会員に限る。
2. 本研究会における講演者は講演要旨を本誌に投稿する。
3. 本誌への掲載論文は病虫害に関する未発表のものおよび本会が依頼したものとする。
4. 原稿は、別途定める執筆要領にしたがって執筆する。
5. 論文投稿予定者は、予定論文表題、代表著者名、所属、連絡先を3月末日までに e-mail に添付した投稿計画連絡票の送付によって編集委員長に連絡する。
6. 投稿に当たっては、原稿および投稿票を4月20日までに e-mail に添付して編集委員長へ送付する。
7. 投稿された原稿は、編集委員会が委託した校閲者2名の校閲を受ける。編集委員会は、校閲者の意見を参考にして著者に原稿の修正を求めることができる。
8. 投稿原稿の採否は編集委員会で審議し、編集委員長が決定する。
9. 校正は原則として初校のみを著者が行う。校正時での内容の変更は認めない。
10. 編集委員会は執筆要領および編集方針に基づき、原稿中の用字・用語を修正する権限を持つ。
11. 英文による表題、摘要および図表は、編集委員会より英文校閲者に校閲を依頼する。表題の校閲料は研究会の経費から負担する。
12. 投稿料、英文校閲料、超過頁代、カラー印刷代、別刷り代等のうち、投稿者負担分については評議員会で決定し、その内容を本会ホームページに掲載するものとする。
13. 掲載された論文の著作権は関東東山病虫害研究会に帰属する。
14. 本規程の改正は評議員会で行い、総会に報告しなければならない。

(2023年3月1日最終改定)

執筆要領

<論文原稿>

1. 原稿用紙

- 1) 原稿には A4 判縦用紙を用い、ワードプロセッサなどで横書きする。原稿の上下と左には約3cm、右には校閲のために8cm以上の余白をとる。1行文字数は24字、1頁行数は28行以下とする。
- 2) 原稿下中央には必ず頁番号を付け、左余白に行番号を入れる。

2. 書体等

- 1) 原稿は和文で横書き口語体とする。漢字の使用は、専門用語を除き、できるだけ常用漢字に限る。動植物名および外来語はカタカナ、病名は常用漢字またはひらがなとし、動物・害虫名は日本応用動物昆虫学会編の農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版、病名は日本植物病理学会編の日本植物病名目録に準拠する。農薬名は原則として一般名を用いる。年号は西暦で表し、数字は原則として算用数字とする。
- 2) 文字サイズは10.5ポイントとする。
- 3) 和文は明朝体、欧文および数字はCenturyを用いる。表題と見出しはゴシック体とする。図・表については特にフォントの指定はしない。
- 4) 漢字、ひらがな、カタカナは全角とする。欧文と数字（一桁、二桁以降とも）は半角とし、数値は3桁ごとに半角コンマを入れて区切る。
- 5) 欧文のイタリック体は実線の下線、ゴシック体は波線の下線、スモールキャピタルは二重の下線で示す。学名は本文の最初に出てきたときに書き、イタリック体とする。統計記号は、統計量 (\bar{x} , t , z , F , r など) はイタリック体にし、略語 (SD, SE, n など) はイタリック体にしないで示す。
- 6) 文章の区切りはコンマ「,」と句点「。」にする。本文中の括弧、コロン等の記号は全角とする。
- 7) 単位の略記は次の例による。
温度 °C ; 重さ kg, g, mg, μ g など ; 長さ km, m, cm, mm, μ m, nm ; 面積 m^2 , cm^2 , a, ha ; 容積 L, ml, μ l ; 時間 ' (分), " (秒) (文章の中では分, 秒とする) ; 濃度 M, mM, N, %, ppm, ppb ; 水素イオン濃度 pH ; 酸化還元電位 Eh, rH。
- 8) 単位と数値の間は半角スペースを入れる。ただし、°や%のような記号の場合は入れない。

3. 論文の構成

1) 原稿は以下のような構成とする。

第1頁：表題，著者名，所属，英文表題，英文著者名，別刷りの英文請求先，責任著者e-mailアドレス，原稿の受領・掲載決定日（日付は空欄）を書く。

第2頁：和文あるいは英文摘要，キーワードを書く。

第3頁以降：本文，引用文献，表，図とする。

4. 著者名・所属等

1) 著者名は姓，名の順に書き，姓または名が1文字の場合は姓と名の間に全角スペースを入れる。英文著者名は名，姓の順に書き，名の頭文字1字のみが大文字，姓はすべて大文字で2文字目以降はスモールキャピタル指定とする。

2) 著者が複数いる場合は中黒点「・」でつなぐ。また，英文著者名は半角コンマでつなぎ，最後の著者名とはandでつなぐ。所属が異なる場合は代表著者と異なる所属の著者名の末尾に上付の*（アスタリスク）を付す。異なる所属の種類が増える場合は*を増やす。

3) 転出後の機関名を記載する場合は，著者名の後に上付数字を付け，別刷り英文請求先の前の行に現在の所属機関名を記載する。

4) 責任著者（Corresponding author）は著者名の後に“†”（剣印・ダガー）を付ける。

5. 摘要等

1) 摘要は簡潔にまとめ，改行はしない。摘要では本文中の図表の引用，文献の引用はしない。

2) 摘要の下に1行空けて論文内容を的確に表す英語キーワードを5語以内で記載する。

例) Key words: IPM, pest forecasting, ……

6. 本文

1) 本文は，緒言（見出しはつけない），材料および方法，結果，考察（あるいは結果および考察），引用文献などの順とする。

2) 本文の見出し・小見出しのランクは，番号なし（材料および方法，結果など），1., 1), (1), の順とする。小見出しの数字は全角の算用数字とする。

3) 本文中や引用文献等の欧文人名は次のようにする。

例, Baker et al. (1975), Dyar の法則, ……

4) 本文中で文献の引用は次のようにする。

野口 (1982a, 1982b, 1983), Tanaka and Kashio (1977), 田中・井上(1973), 田中ら(1974),
Baker et al. (1975), (桑原ら, 1983; 池田ら, 1984; Smitsaert et al., 1985)

5) 図表の挿入位置は原稿の本文右余白に明確に示す。

7. 引用文献

1) 引用文献はアルファベット順，暦年順に配列する。雑誌名は和文誌は省略・略記せず正式誌名で表記する。欧文誌は国際規格に従い，ISI Journal Title Abbreviations (<https://www.library.caltech.edu/journal-title-abbreviations>)などを参考に略称で表記する。

2) 日本語および日本語姓と名の字間および氏名間の・の全角を除き，括弧，頁間のハイフン，コロン，カンマ，ピリオド，英字，数字等はすべて半角とし，字間も半角とする。また，括弧の前後および半角コロン，カンマ，ピリオド等の直後には半角スペースを挿入する。以下に例を示す。

(1) 雑誌など逐次刊行物

五味唯考・根本正康(1984) 日本植物病理学会報 50: 109-113.

Nakamura, K. and K. Kawasaki (1977) Appl. Entomol. Zool. 12: 162-177.

(2) 単行本

大木 理(2007) 植物病理学. 東京化学同人, 東京. 161pp.

Lewis, T. (1973) Thrips, Their Biology and Economic Importance. Academic Press, London. 300pp.

(3) 単行本中の分担執筆論文

岡本 弘(1962) 植物病理学実験法(明日山秀文ら編). 日本植物防疫協会, 東京. pp. 301-334.

Sanders, C. J. (1974) Pheromones (M. C. Birch ed.). North-Holland Pub. Co., Amsterdam. pp. 435-441.

(4) Webサイト（著者名(年号) webサイト名. 入手先. サイトのurl, (アクセスを確認した最新の年月日).)

長坂幸吉(2014) アブラムシ対策用「バンカー法」技術マニュアル2014年改訂版. 農研機構.

https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/051982.html, (参照 2018-10-15).

3) 雑誌および単行本で著者が3名以上の場合は，著者名は和文で――ら，英文では―― et al. とする。

4) 講演要旨を引用する場合は，最後に（講要）または（Abstr.）を記す。

8. 図・表

1) 図はできるだけ簡略にし，必要最小限にとどめる。図の大きさはあらかじめ1/2（面積で1/4）程度に縮小できるように描く。凡例は図内に書く。

2) 図の表題は図の下部に書き，第○図……のようにし，文末にピリオドは入れない。注釈は表題の後に改行して表記し，文末にピリオドを付ける。英文の場合は，表題の文末に半角ピリオドを入れ，続けて注釈を記載し，文末にピリオドを付ける。

3) 表はできるだけ簡略にし，原則として縦線は使用しない。極端な縦長や横長は避ける。

- 4) 表の表題は上部に第○表……のようにし、文末にピリオドは入れない。表中の注釈は a), b)…… (上付) を用い、表下は以下のように記し、文末には和文、英文ともピリオドを付ける。
 - a) …………….
 - b) …………….
- 5) 図・表は1枚を1葉に書き、本文の後に添付してひとつのファイルにまとめる。必要に応じて図表の説明文を別途作成し原稿の末尾に添付する。
9. 原稿は原則として電子ファイルによる投稿とし、投稿時のファイル名は、「代表著者名. 拡張子」とする。同一著者が複数の原稿を投稿する場合は著者名の後ろに番号を付す。
10. 審査を経て受理された原稿は、編集委員長の指示に従い所定の様式に再編集し、E-mail に添付して編集委員長へ送付する。なお、図や写真の原稿は受理後印刷の段階で原図あるいは明瞭なTIF, EPS, PPT, JPEG等のファイルの提出を求めることがある。

<講演要旨>

A4判、横書きとし、余白を上下25mm、左右30mmとり、1行文字数を42字とする。書体等は論文原稿の執筆要領に従う。表題、著者名、所属 () 内に記載)、本文の順に、それぞれ改行を入れて全体を 600 字程度にまとめる。本文中では改行せず、図表は用いない。

(2019年7月1日最終改定)